

日陰を使ってドッジボール



夏の終わりとはいえ、各地で猛暑日を記録する日もあるくらい晴れた時の日差しは強いものです。そんなとき、グラウンドの大きな楠が、これまた大きな影を作ってくれています。

そこを利用したドッジボール。
「う～ん。頭使って遊んでいるなあ!!!」
感心させられるひと場面でした。



【短いひと夏の思い出】(陶器) (写真右)

夏休みに毎年恒例の陶芸教室を行い、先日焼き上げました。子どもたちが作る作品というのは、大人には真似のできない個性あふれた独特の風合いがあります。

「純粹無垢だから!?!」「作為的ではないから?」

その理由をはっきりとしませんが、目の前の粘土にスーッと向かっていきながら、作っている姿は、いつ見ても素敵な姿です。

左上の小鉢は、1、2年生が10cmほどの石に粘土をかぶせて作ったもの。釉薬は「織部」。

右上は、3、4年生が作った「土鈴」。釉薬は、「ルリ釉」です。小さく丸めた粘土を新聞紙でくるみ、タコ糸で縛った上から粘土をかぶせて整形していったもの。いい音が出ています。

下の写真は、5、6年生の電動ろくろ整形と、手びねりによる湯飲みなど。よくできていますね。白は「乳白」、黄色いのは「黄瀬戸(きぜと)」の釉薬をかけてあります。大切に使ってあげてください。



ダンス・ダンス・ダンス

体育館で歌いながら踊り始めた5年生。残念ながら、私には、何の曲なのかさっぱりわかりません。「楽しそうだ」ということは伝わってきます。

AKBに代表されるように、たかさんのグループがデビューして、映像が配信されています。子どもは、そういう影響を多大に受けながら成長していくのでしょうか。



きらめき通信 46号で紹介した猫。数か月でこんなにお姉さんになりました。